

(指定様式)

団体調書【はじめの一歩部門】

(1) 団体概要

団体名	一般社団法人かのこ	HP 等 URL	https://www.facebook.com/kanokointheforest
団体種別と 設立年月	<input type="checkbox"/> NPO 法人 (年 月) <input checked="" type="checkbox"/> その他法人(2023年4月12日)	活動分野	こどもの健全育成
代表者名	役職名：代表理事 氏 名：安藤さち子	会員数	23 名
団体連絡先 (申請担当者)			

(2) 会員名簿

--	--	--	--	--	--

(3) 団体の活動目的

活動の目的・目標	学校と距離を置くことになっても自信をなくすことなく大切な学童期をその子らしく生きてほしいと願って 2021 年 4 月に発足。「この自分で大丈夫と思える」「自分のことは自分で決められる」「お互いによく聴き合う」などをモットーに対話を中心としながら、学びのオーナーシップをこどもたちに手渡すことを目的に活動。また最終的には、人生の主人公は自分自身であるという自信を持って社会の構成員として活躍してもらいたい、世界を見渡しても課題山積のこの社会において、学童期の頃から当事者意識を持ち、ともに社会を創る者として大人もこどもも学び合い成長していくことを目標とする。
----------	---

活動の内容・活動実績	2022年度は登録児童数 22 名、年間活動回数 79 回（平日日中）開催。お泊り会、社会科見学（消防、スーパー）、哲学対話、ピースフルコミュニケーション、算数文章問題ほか創作活動、児童による企画遠足、発表会、説明会、懇談会などを開催。毎月のスタッフミーティングの他、愛知県フリースクール連絡会、JDEC 全国大会、machi すくブレイン会議開催、講師及び講演会 5 回開催。子どもの権利条約フォーラム実行委員会に高学年児童 2 名が参加中。石川県の F.K ソリューションズ(株)の協賛金があり拠点の修繕費用等に充てた。
------------	--

（４）補助金の使用用途と活用する活動・事業内容など

フリースクールが公的補助の対象となる自治体は他県には出現。愛知県や豊田市はまだ検討が始まったばかりで、運営資金を民間に頼らざるを得ない。経済的な理由で参加を断念することがないようにと開催当初からスタッフの有償ボランティアに頼りつつ参加費を安価に抑えてきた。その為、企業の協賛や市民の寄付が運営を支える資金源となっており、さらなる拡充が求められている。それら支援者に視覚的にわかりやすく訴えるリーフレット制作が必須である。賛助会員を募る内容をサイト上で行ったところ、日頃からフォローをしてきていた方から申し込みを取り付けることができた。募集投稿が自然の中で遊ぶ児童の表情のわかる写真だったことの効果もあると考えられる。リーフレットを専門家にデザインしてもらうことで、より協賛者、支援者の獲得の拡充につなげたい。

（５）審査項目毎にアピールしたいこと

<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会課題に対して、団体の活動目的が明確となっているか。（趣味や娯楽、特定の個人や団体の利益が目的となっていないか） 	<p>2022 年末の調べで豊田市小中学校で不登校とカウントされた人数は 909 人に及び、うち適応指導教室に通う児童数は 154 人である。数字は年間 30 日以上学校に行っていない児童数のため保健室登校などを含めるとさらに多い。市内フリースクールが 2 校となるも、不登校発生時期が低年齢化する現状に対し低学年を受け入れるスクールは当団体のみで、12 名の待機児童を抱える状態である。当スクールに通う児童を観ると、当該児童の課題に起因するものよりも、学校の体制に合わないなど、環境因子が大きいことも実態としてある。また多様な学びへの社会的関心も高まり全国紙の取材などを受けるに至る。</p>
<p>【資金】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体の自主的な財源を確保しようとしているか（会費・参加費等）。 	<p>社会課題の観点からも、学校離れの問題は、個人の課題というより社会全体の問題である。その点に訴えるために受益者負担を最小限にしつつ、企業協賛、賛助会費、研修等企画費等を通じて財源を確保している。社会の関心も高まっており作年度の寄付額（協賛含む）は予算立てをはるかに上回る 1500%以上（31 万強）だった。リーフレット今年度は倍増を目標とした。</p>
<p>【継続性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体の組織的な活動ができる体制が整っているか。 ・適正な事業計画が作成されているか。 	<p>直接フリースクールに携わるスタッフが 8 名、会議で意見をいただいたり活動をサポートしてくれるブレインさんが 7 名、元当該児童保護者の立場であった方が賛助会員になってくれるなど、人員的な体制は整いつつある。昨年度賛助会員 11 名で推移し継続依頼と新規開拓（4 月時点で新規 2 名）、今年度はこちらも倍増を目指す。</p>